Journal of The Human Development Research, Minamikyushu University 2019 ,Vol. 9,83-94

研究ノート

イギリス・ジュビリーセンターにおけるキャラクター教育の特質
－わが国の社会科と道徳科の関連に示唆するもの－

酒井　喜八郎

Feature of Character education by Jubilee centre in U.K.
- Suggestion between social studies and moral education in Japan

SAKAI Kihachiro

キーワード：イギリス、キャラクター教育、シティズンシップ教育、ジュビリーセンター、わが国の社会科と道徳科の関連

概要：イギリスのジュビリーセンターの推進するキャラクター教育は、シティズンシップ教育よりも教科性が薄く、道徳に極めて近く、地理、歴史を包摂したものとなっている。わが国の社会科、道徳、総合、特別活動、社会教育の領域を含んでいる。社会性、道徳性、人間性の教育を学校教育で系統的に行う試みが、日本でも欧米でも試みられている。本研究では、ジュビリーセンターによるキャラクター教育に関する2冊の主要書籍の内容の分析と、バーミンガム大学・ジュビリーセンターへのインタビュー調査から、イギリスのキャラクター教育では、物語を通して、勇気や思いやり、レジリエンスなどの特性とメタレベルの徳（intellectual virtues）の育成を目指しており、根底には、実践知を重んじるアリストテレスの思想があることが明らかとなった。日本の場合､シティズンシップを育成する教科として、社会科と道徳科があるが、社会科は、社会認識形成と公民的資質の育成を目的とする教科である。イギリスのキャラクター教育に関する書籍の内容分析から、今後のわが国の教科としての社会科と道徳科の関連について考察すると、特に、地球環境問題や人物学習における価値葛藤や意志決定の場面で、それぞれの教科の特質をよく理解し、授業設計やカリキュラムマネジメントをする必要がある。また、同時に、社会科学科としての社会科の重要性と意義を考えていくことが示唆される。

Ⅰ　はじめに

1　問題の所在と研究の目的

教科としての社会科の目標は、「公民的資質を育成すること」である。これまでわが国の社会科は、シティズンシップを育成する教科領域が、社会科、道徳､特別活動と鼎立（ていりつ）していた（蓮見、2012）。平成29年3月に公示された新学習指導要領において道徳が教科になった。教科としての社会科と道徳科が併存するとどのようになるのか。

この問いに対して、池野（2015）は、既に2015年1月に東京CICで、「道徳性の視点から考えるシティズンシップ教育」のシンポジウムを開催している。 ここではわが国の道徳教育の動向と道徳性との関わりで社会科教育を考える重要性が指摘された。一方、小玉（2014）は、道徳が教科となることに対して、道徳とシティズンシップ教育との連携可能性について、「特に小学校高学年や中学校では、現実社会で顕在化している生命倫理や情報倫理、環境問題など、多様な価値観が引き出され考えを深めることができるような素材がもっと積極的に活用されるべきである」と述べている。 本研究では、この併存している事例をイギリスに求め、最近注目されているイギリスのジュビリーセンターが推進するキャラクター教育の特質を明らかにすることと、わが国の教科としての社会科と道徳科との関連を考えることを目的とする。

2. 研究の背景

これまで、筆者はシティズンシップ教育の視点から、シンガポールの社会科教育の動向とその特質を、地理カリキュラム・教科書・実際の授業の分析を通して明らかにしてきた（酒井、2014）。さらに、新教科CCE（Character & Citizenship教育）のシラバス、教科書の分析を行ってきた（酒井、

2016)。また、オーストラリアのシティズンシップ教育としてのESD（EfS）教育の動向（酒井、2015）や、ACARA（The Australian Curriculum, Assessment and Reporting Authority）によるナショナルカリキュラムの分析や主な幼・小・中の実践観察を中心に少しずつ明らかにしている（酒井、2017)。今回はこれまでの研究成果を踏まえ、イギリスに注目する。イギリスのキャラクター教育に注目する理由は、次の3点である。

第1にATC21S（ Assessment and Teaching of 21stcentury skills）（ http://atc21s .org ）の新学力を考える6か国の中に、シンガポールとオーストラリア、フィンランド、アメリカ、ポルトガルと同様にイギリスが含まれているからである。

これまで、筆者は、6か国のうち、シンガポールとオーストラリアにおける新教育についてシラバスや教科書、授業分析を行い、シティズンシップ教育の動向と特質を明らかにしてきた。さらに、シンガポールは、シティズンシッップ教育としてこれまでの社会科に加え、キャラクター＆シティズンシップ科が新教科として誕生したことを報告している。また、オーストラリアでは、EfS教育を中心に主体的に行動する児童の育成が目指されていることを報告している。それでは、現在のイギリスの動向はどうかという問いである。

第2に、イギリスは、周知のとおり、2002年にシティズンシップ科ができ、教科の1つとなった。(例えば､戸田（2001)､今谷（2004)､水山（2010)､田中（2012)､藤原（2006)､吉村（2012)､池野:2015)等)。しかしながら、近年イギリスでは、シティズンシップ教育はやや衰退し、最近隆盛になっているのがバーミンガム大学ジュビリーセンターの推進するキャラクター教育である。そこで、シティズンシップ教育発祥の国イギリスの市民性を育成するシティズンシップ科とキャラクター教育の動向とその関連に注目する。イギリスのキャラクター教育の分析を行いその特質を明らかにすることは、わが国のシティズンシップ教育としての社会科教育と道徳教育との関連を考える上でも意義がある。

道徳科と社会科との関連は、新学習指導要領では極めて重要な問題であり、喫緊の課題である。道徳が教科になっただけではなく、1つひとつの教科が資質能力の育成を目指しているからである。

第3に、イギリスの道徳教育、キャラクター教育の視点からシティズンシップ教育を考える研究が少ないことである。特に、イギリスではジュビリーセンターなど各センターが教育実践を積極的に手がけているが、まだ十分検討されていないことである。

これまでのわが国におけるイギリスの社会系教育の先行研究は、地理関係（例えば、伊藤：2012）などがあるが､近年イギリスで注目されているキャラクター教育の論考は管見の限りほとんどない。

一方、イギリスの道徳教育の研究は、わが国では片山（2009､2017）があるがわずかである。また、イギリスのシティズンシップ教育を道徳性の視点から分析する重要性を指摘した川口（2012）が注目される。筆者の関心はこの系譜に位置づく。さらに、イギリス以外の国々のキャラクター教育の研究も､アメリカのキャラクター教育の研究(中原、2009)、シンガポールのCCEの研究（酒井2016）など、日本ではまだわずかである。

以上のような理由から、本研究は、イギリスで現在普及しつつあるジュビリーセンターが推進するキャラクター教育に注目し、その内容を分析することで、キャラクター教育の特質を明らかにしたい。さらにわが国のシティズンシップ教育としての社会科教育と道徳科の関連に対して示唆するものについて考えてみたい。

3　研究の方法

(1)　イギリスのジュビリーセンターのフレームワークをリーフレット（2013）から分析する。

(2)　イギリスのジュビリーセンターの訪問及び、センターの研究動向と特質をジュビリーセンターのTom Harrison氏に半構造化インタビューをする(2015年10月、2016年7月実施)。その後、2018年3月に新教材も検討。

(3)　キャラクター教育の最初の書籍***EDUCATING CHRACTER THROUGH STORIES***（物語を通してキャラクターを教えること）の内容を分析する。

(4)　キャラクター教育の最新の書籍***Teaching Character IN THE PRIMARY CLASSROOM***（小学校の教室でキャラクター教育を教えること）の

内容を分析する。

(5)　(1)～(4)を総合して、イギリスのキャラクター教育の動向と特質について明らかにする。

(6)　さらに、わが国のシティズンシップ教育としての社会科教育に示唆するものについて道徳教育との関連で考察する。

Ⅱ　イギリスのキャラクター教育

1　イギリスで注目されるキャラクター教育と衰退するシティズンシップ教育

2016年7月28日から30日までイギリスのバーミンガム大学で第12回シティズンシップ会議が開催された。基調講演で、James Arthur（バーミンガム大学）は、イギリスのシティズンシップ教育が下火になった理由としてシティズンシップ教育を教える教師教育が充分でなかったことや、一方で、キャラクター教育が注目されていることを述べた。

2　イギリスのジュビリーセンター（Jubilee Centre）の概要

ジュビリーセンターは、2012年にイギリスのキャラクター教育の普及のためにバーミンガム大学に設立された。ジュビリーセンターとは、道徳的品格と徳を専門としたリサーチセンターのことである。職員30名で、その大半は研究者で、特に心理学専攻の研究者や教材用のフィルム制作をしている研究者がいる。現場の教員と共同研究を行っている。このジュビリーセンターによって行われた「Nightly Virtues（騎士の徳）プログラム」は、それぞれの学校への新しい教材リソースを提供している。現場の教師によってカリキュラムの中に組み込むことが可能であり、若い人々に重要なインパクトを与えている。何百という学校がこのカリキュラムを採用している。それは理論的・概念的な基礎だけでなく、体験活動の支援も行い、子どもたちにどんな人間になってほしいかという願いが根底にある。イギリス教育省もこのプログラムを後押ししているので、現在イギリスではこれまでのシティズンシップ教育は下火になり、「Nightly Virtues（騎士の徳）プログラム」に代表されるキャラクター教育が主流となっているのである。次に、キャラクター教育の枠組みを図1に示す。

3　キャラクター教育の枠組み

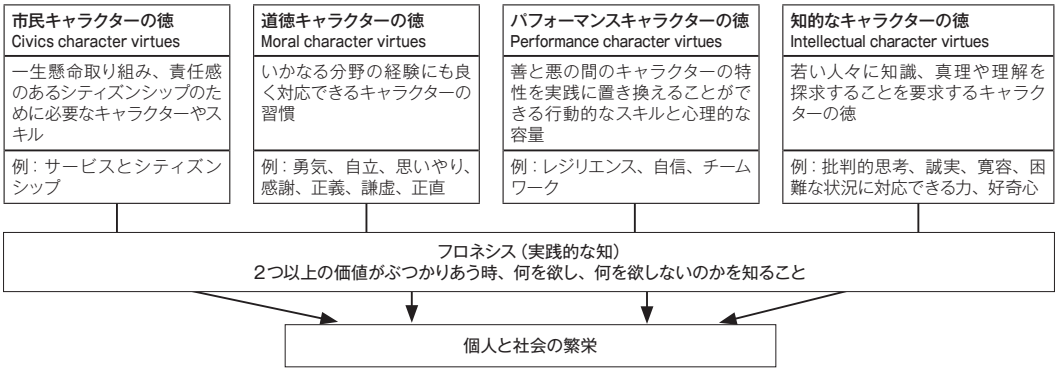

図１　ジュビリーセンターのキャラクター教育の枠組

キャラクター教育で獲得させたい徳を＜市民性の徳＞、＜モラルの徳（倫理的な徳）＞、＜パフォーマンスの徳＞、＜知性の徳＞の4種類に分類している。＜市民性の徳＞とは、社会で働くためのスキルであり、責任のあるシティズンシップのために必要である。サービス、シティズンシップ、ボランティア、良いセンス（分別、良識）がキーワードである。＜モラルの徳＞とは、いかなる状態にも対応できる習慣であり、勇気、自立、感謝がキーワードである。＜パフォーマンスの徳＞とは、行動のスキルを可能にするものであり、キーワードは、レジリエンス、決断、創造性である。

＜知性の徳＞とは、知識、真理、理解を探究することを要求し、この例としては、批判的思考、広

い心、困難に対応する力、好奇心などである。そして、これらの2つ以上の価値がぶつかりあう時、何を欲し、何を欲さないかを知ることが、practical wisdom、good sense、phronesis（実践知）という重要なメタレベルの徳：intellectual virtuesにつながると位置づけており、これが個人や社会を繁栄させるとしている。「良いセンス」good sense（分別、良識）とはintellectual virtuesの一つであり、かつ他の全ての徳の部分をなす、何よりも重要なメタレベルの徳である。

そして、practical wisdomもphronesisも、good senseと同じ意味の語（実践知）であり、キャラクター教育の究極的な目的が、practical wisdom/ good sense/ phronesisという実践知の育成であることを押さえておきたい。

Ⅲ なぜイギリスは今キャラクター教育なのか？

1　Tom Harrisonへの半構造化インタビュー

それではなぜイギリスは今キャラクター教育なのか。また、イギリスのキャラクター教育の内容はどのようなものなのか。

*EDUCATING CHARACTER THROUGH STORIES*の著者のTom Harrison（Jubilee centre）への半構造化インタビューを2015年11月と2016年7月に、（それぞれ約2時間程度、ジュビリーセンターの彼の研究室で実施した。）

Tom Harrisonへのインタビューからの知見としては次のとおりである。

ジュビリーセンターではキャラクター教育のフレームワークのリーフレットを約5000の学校に配布している。その波及効果はイングランドだけでなくスコットランド、ウエールズにまで及んでいる。ここまでイギリスのキャラクター教育が発展した背景は、2013年に教育省大臣のNicky Morganがこのキャラクター教育に関心を示し支援するようになりイングランドの学校でさらに関心が高まったことである。 周知のとおり、2002年に、シティズンシップ教育が始まった（例えば、藤原(2006)、水山（2010)、の研究）が、10年以上たった現在、政権の交代もあり、衰退しており、2015年にはシティズンシップ教育を取り上げている学校と、一方で取りあげていない学校が50％くらいあり、イングランドでは、キャラクター教育がシティズンシップ教育を凌ぐ勢いがあるという。

それでは、キャラクター教育のフレームワークとは何だろうか。キャラクター教育で重視されている価値のNo1はコンパッショネイト（思いやり）を奨励すること、No2はこれを使用する能力のことである。

Tom Harrisonによればキャラクター教育とは大きなアンブレラ（傘）のようなものであり、この中にシティズンシップ教育やPSHE（Personal, Social, Health and Economic Education）や地理・歴史などの教科が包摂されている。

表1は、ジュビリーセンターが発行しているリーフレット（2013）の「なぜキャラクター教育が必要なのか」を述べた11項目を示す。

表1　なぜキャラクター教育は必要なのか？

◎なぜキャラクター教育が重要なのか?	
	（ジュブリーセンターリーフレット（2013）を筆者訳出
1	キャラクターは基礎である。キャラクターは人間と社会の繁栄の基礎である。
2	キャラクターは大きくロールモデルと情緒の触れあいから獲得される。学校文化とエーソースはそれゆえに中心となる。
3	キャラクターは教えられるべきものである。直接にキャラクターを教えることは、学校の中や外のいたるところで、キャラクターを発達させる理論、言語やツールを準備する。
4	キャラクターは教育できる。それは固定されないし、徳は発達できる。その進歩は、自身のレポートだけでなく対象へのリサーチメソッドを通して総合的に測定できる。
5	キャラクターはより良い改善、より良い行動、増加する雇用のための基礎である、しかし最も重要なのは健全な社会のための基礎である。
6	キャラクターは、両親や雇用者、他の組織とともに発達されるべきである。
7	良いキャラクターは学生にとって例えばグレードのようなアカデミックなものを獲得する。
8	おのおのの子どもは、キャラクター教育への権利がある。
9	キャラクターの発達は、子どもたちをエンパワーし、自由にする。
10	キャラクターは他人から学ぶレディネスを示す。
11	キャラクターは民主的なシティズンシップを促進する。

2　キャラクター教育の実際の地理・歴史の授業

インタビューの結果、キャラクター教育とは、シティズンシップ科や地理を包摂したアンブレラのようなものであるということがわかってきた。

では、例えば、地理についてはどのように具体的な授業レベルや実践レベルで教えられるのだろうか。この問いに対して、ディレクターのLee

Rogersonにより、実際に現場教師によって蓄積されている指導案の一部を見ることができた。サポートの流れとしては、配布されたキャラクター教育の枠組みをもとに、学校現場の教師たちが指導案をまず作成する。教師たちから送られてきた指導案を添削して返却するという方法をとっている。例えば、地理とキャラクター教育では、次のような主題の指導案が作成されていた。（**表２参照**）

表２　キャラクター教育での地理

事例１：地理の環境教育の葛藤問題
事例２：林業のステークホルダー

ジュビリーセンターで見ることのできたキャラクター教育における地理の指導案に見られた主題は、この2つであり、社会科でいう価値葛藤問題が取りあげられていることが明らかとなった。

３　インターネットによる反転授業や多文化教育

ジュビリーセンターではインターネットによる教育も、修士レベルの学生を対象に行われており、オーストラリアのメルボルン、シドニー、アデレードなどに及んでいる。2015年1月にMOOC1を行い、約7000人が参加した。また10月にMOOC2を4週間行った。MOOCとは、Massive Open Online Courseの略で、大学によるインターネット活用による反転授業を実施して、キャラクター教育の普及を図っていることも、ジュビリーセンターの教育の特色である。また、秘書のVicci Horganは、「感謝の手紙」という企画をこの2年間行い、全国から感謝の手紙がジュビリーセンターに寄せられており少しずつ成果を挙げている。

Ⅳ　*EDUCATING CHARACTER THROUGH STORIES*：（キャラクターを物語を通して教えること）の単元構成の分析

１　*EDUCATING CHARACTER THROUGH STORIES*：（キャラクターを物語を通して教えること）の単元構成

表３はDavid CarrとTom Harrisonの『キャラクターを物語を通して教えること』というタイトルの本の各章の構成を示したものである。この本は、第1章「キャラクター教育の事例」、第2章「モラル知識としての物語」、第3章「キャラクター教育に対する物語の活用のアプローチ」、第4章「中世の騎士の徳」、第5章「騎士の徳のプロジェクト」、第6章「騎士の徳のプログラムの教材化」、第7章「騎士の徳：そのインパクトと将来」という内容構成になっている。

表３　*EDUCATING CHARACTER THROUGH STORIES*：の単元構成

・キャラクター教育の手段と方法
第1章：キャラクター教育の事例 ・鍵となる教育の関心としてのキャラクター ・価値と徳の伴った教育の問題 ・より広い教育の文脈 ・キャラクターと徳、キャラクターと徳のためのジュビリーセンター
第２章：モラル知識としての物語 ・物語についての現代と古代の懐疑主義 ・人類の歴史のキャラクター、情緒、モラルの重要性
第３章：キャラクター教育に対する物語の活用へのアプローチ ・序文 ・徳と文学 ・人間の目的と運命のナラティブ ・徳と文学 ― 人間のキャラクターのアナトミー
第４章：中世の騎士の徳 ・これまでの物語 ・中世のキャラクター ・アーサー王と騎士たち ・過去と現在の騎士の教育の可能性
第５章：騎士の徳のプロジェクト：Night Virtues Projectの物語 ・物語を選ぶこと ・ガレットとリネット ・エルシド歴史の伝説 ・ドンキホーテ ・ベニスの商人
第６章：騎士の徳のプログラムの教材化 ・プログラムに対しての背景 ・資料を教えること ・ジャーナル ・観察したもう1人の教員 ・他の教える資料 ・カリキュラム ・リテラシー ・他の科目 ・より広い現代の科目 ・騎士の徳 ・先駆者な教材をパッケージすること
第7章：騎士の徳：そのインパクトと将来への展望 ・キャラクターを構築する ・セマンティックブロック ・個人のキャラクター形成 ・キャラクターの複雑性を教えること ・騎士の徳：学校と家庭のパートナーシップ ・騎士の徳は次にどこに行くのか

この本ではまず冒頭に、「学校とは子どもや若い人々のためにある。」として、学校教育の文脈で若い人々にどのようにモラルを教え伝達するかについて議論されている。キャラクター教育への関心はアメリカを超えて、オーストラリア、カナダやヨーロッパ、中国、インド、韓国、マレーシアまで広がっている。また、シンガポールの新教科

CCE（Charcter ＆Citizenship education）教育が実施されていることにも触れ、世界の動向を視野に入れながら、現在のUKの発展に焦点を当てる。

教師や生徒のジャーナル（作文）などのパッケージが一連の騎士の徳プロジェクトのために組み立てられている。例えば、19世紀当時の倫理観をもとに描いた詩人のテニスンの作品の『国王牧歌』や、ユリシーズなどのナラティブな文学にも、人間とは何かというアリストテレスの思想が盛り込まれている。つまり、古代ギリシアの物語も、キャラクター教育になり得るとしている。騎士の英雄として、騎士の徳の中にベニスの商人なども付け加えられた。学びは、ナイチンゲールやエリザベスフライ、ハリエットタブマン、マザーテレサらまで発展した。彼らの道徳社会への洞察力だけでなく、新しい文化、精神、芸術などの分野にも影響を与えるだろう。それぞれの物語の特徴のある価値として取りあげられているものとして、勇気、謙遜、正直、愛、サービス、自立、正義、感謝などがある。教材として、5時間分の教師用ノートや子どもたちのジャーナル（日記）などをひとまとめにしたものを準備している。『騎士の徳』の教材化にあたっての教師たちの重要な課題は、イギリスの公式のカリキュラムのどこに位置づけるかということであった。

2 『騎士の徳』プログラムの動向と今後の取り組み

イギリスでは、『騎士の徳』プログラムは、教多くの人々や教師、生徒,保護者たちによって支持されており、教師、生徒、保護者を巻き込み、2014年までにイングランドにある100以上の学校によって行われ、徳を学ぶ児童たちが増加している。

Jon Davidson（University of Greenwich）は『騎士の徳』の成功に続いてローザ（ブリタニア王国王女）やロビン・フッド（中世イングランドの伝説上の人物）などの物語を小学校で取り組むように手がけている。『騎士の徳』の次は、一つの方向性はロビンフッドなどの伝説、もう一つの方向性は、勇気ある女性たちの話である。例えば、クリミア戦争での負傷兵たちの看護や医療衛生改革で有名なナイチンゲール、コルカタから始まり貧しい人々のための活動で修道女に知られているマリア・テレサ、等の人物が取りあげられている。エミリンパンクフルスト（女性人権活動家）、アニーオークレー（女性射撃手）、マリア・モンテッソーリ（イタリアの医学博士、幼児教育者）らのイギリス史で活躍した女性の名前が挙がっている。また、物語をキャラクター教育として、学校教育に取り組むことの良さと課題が述べられている。

V　イギリスのキャラクター教育の本：*Teaching Character IN THE PRIMARY CLASSROOM*の内容分析

1　キャラクター教育を教えることの章構成

表4は、Tom Harrisonの「*Teaching Character IN THE PRIMARY CLASSROOM*：小学校でキャラクター教育を教えること」というキャラクター教育を教える小学校教員向けの書籍の単元構成を示したものである。これを分析していこう。

表4から、キャラクター教育を教えることと、つかむことの2つに分けて内容構成していることがわかる。単元構成は12章で、付録3章とともに作成されている。

第1章のキャラクターの問題では、頭辞語としてFACTが示される。それぞれ、Flourish, Adaptable, Caught, Taught,（繁栄、適用、獲得される、教え

表４：「小学校でキャラクター教育を教えること」の単元構成

章立て	
パート1：キャラクター教育を紹介すること	
1	キャラクターの問題
2	キャラクター教育とはなにか?
3	キャラクター教育：理論と測定
パート2：キャラクター教育：教えられること	
4	キャラクター教育：教えられることとつかむこと
5	キャラクター教育で教えられるコース
6	カリキュラムを通してキャラクターを教えること
7	キャラクター教育を評価すること
パート3：キャラクター教育でつかむこと	
8	キャラクターを教えることに対する学校全体のアプローチ
9	キャラクター教育としての先生
10	協同カリキュラムプログラムをとおしてキャラクターを構築すること
パート4：サポートする資料	
11	どのようにしたらキャラクターの学校になるか
12	イギリスのキャラクター教育のフレームワーク
13	キャラクター教育を教える資料

られる）の4つのキーワードがこの本のメッセージであるとしている。

第2章の「キャラクター教育とは何か？」では、徳を4つのタイプ（道徳、市民、パフォーマンス、知性）に分類すると論じている。第3章の「理論と測定」では、キャラクター教育の理論についての説明とキャラクターを測定する努力が必要であることが述べられている。イギリスのキャラクター教育の理論にはポジティブ心理学（positive psychology：個人や社会を繁栄させる長所を研究する心理学）が背景にあることや、古代のアリストテレスの徳の倫理の解釈が基礎にあるとしている。 エウダイモニア（「幸福」を意味するギリシア語）、アレテー（素晴らしさ、徳）、フロネシス（実践的な知）を目指す。また、評価については特に明示せず、アドバイスの形で記述されている。

第4章はキャラクター教育における教えることと獲得することの議論がなされている。第5章は**表5**のように学年ごとに教える内容が整理されている。

表5　各学年の内容

1年	他人に対する公平な分担
2年	公平に食べ物を分けること
3年	全ての話に対する2つの側面
4年	学校のルール
5年	物の見方・視点
6年	正義

この章は、入学から6年生の卒業まで一貫したキャラクター教育に適用できる。これを見る限り、シティズンシップとして、基礎的なルール、物の見方など、ふだんの日常生活でお互いがコミュニケーションをする場合の重要なポイントが示されている。シティズンシップを学ぶ重要な基礎的な内容を学ぶ構成になっている。特に注目すべきは、3年の全ての物事の2面性についてである。第6章では、カリキュラムを通してキャラクター教育を教えることについて書かれている。特に、The Loraxの物語を活用し、道徳的、情緒的な物語の内容をいかに描きだすかを理解する。物語の舞台は、本物の木が無くなってしまった世界。何故、木が無くなったのかという事実に直面した時、心を大きく動かされるストーリーの環境破壊がテーマのイギリス児童文学である。第7章では、キャラクター教育の評価についてSTOP（モラルが形成されるまで立ち止まること）、NOTICE（状況の気づき）、LOOK（どのように情緒が私たちに良い選択を与えるか）、LISTEN（慎重な選択をする理由の活用）CATERPILLAR（個人のモラルの発達の理解）の5つの項目を第1段階から第6段階までマトリックスにして分類している。さらに、ラッセルの円環モデルが紹介されている。このように、ジュビリーセンターは、心理学など幅広い視点からキャラクター教育を研究していることが読み取れる。第8章では、hidden curriclum（隠れたカリキュラム）：学校のフォーマルなカリキュラムにない知識行動の様式等）をもっと可視化することが述べられている。（フィリップWジャクソン，1968）第9章では、キャラクター教育者としての教師という内容でキャラクター教育の推進には、教師の役割が重要であることが述べられている。冒頭にアメリカのキャラクター教育で特に心の教育を進めるThomas Lickonaが紹介され、アメリカのキャラクター教育の影響もうかがえる。またジュビリーセンターの教師教育プログラムの紹介もなされている。第10章では、若者の社会への行動力について書かれており、キャラクター教育はwhole school approach（学校全体のアプローチ）とあるように、学校全体の主体的な取り組みが期待されている。アフリカの有名な「子ども一人育てるには、村中の人が必要」ということわざを引用しているのは興味深い。第11章では、課外活動でのキャラクター教育が紹介されている。「両親とコミュニティでともに働くこと」、では、騎士の徳の物語の主人公の徳を、自分の生活と結びつけて中や外で実践していことが重要であるとし子どもの日記（pupils’ journal）によるリフレクションの大切さを述べ、教師や両親の協力がキャラクター教育では重要とされる。

2　見えにくいキャラクター教育を可視化するモデル

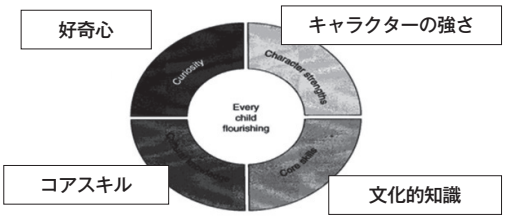

図2　キャラクター教育の学習モデル
(*Teaching Character IN THE PRIMARY CLASSROOM* p.104より)

図2は、全ての子どもたちが繁栄するための見えにくいキャラクター教育を可視化するモデルである。これを見てわかるように、＜キャラクターの強さ＞、＜コアスキル＞、＜好奇心＞、＜文化的知識＞が、＜全ての子どもたちが繁栄する:Every child flourishing＞という中核目標の周りを囲む外殻となっており、このモデルが内容構成の柱となっていることがわかる。具体的には次の通りである。

好奇心とは、子どもたちが、独立した学習者となるように興味深くオープンエンドのプロジェクトに取り組むチャンスを与えるスキルのことである。キャラクターの強さとは、子どもたちに、アカデミックな成長と個人のウェルビーングの達成を助けるキャラクターの強さと徳を発達させることである。コアスキルとは、リテラシー、数理能力、批判的思考力を全体のカリキュラムで発達させることである。文化的知識とは、個々の教科に基づいた学びが、子どもたちに世界の理解と取り組みを理解することを認めることである。この4つの教育理念が、子どもたちを繁栄させるとしている。

ここで、注目したいのは、文化的知識に個々の教科との関連が言及されており、教科の利点も含まれていることである。

3　社会系教科との関連

キャクラター教育は、教科との関連で教えることが述べられている。特に、教科との関連について、英語（国語）教育との関連で教えることに他教科との関連より数頁を割いて説明しており、キャクラター教育と国語教育との関連が重視されていることがわかる。

それでは、肝心の社会系教科との関連はどうか。社会系教科では、地理と歴史のそれぞれの関連について述べられている。キャラクター教育における地理では何が教えられるのだろうか。これについては、次のような内容記述がある。

表6　キャラクター教育での地理

p.87　Geography に関する記述を筆者訳出。

地理的な理解はほとんど全てのモラルの問題を埋め込んでいる。
なぜならば、モラルの問題が、人文地理や自然地理の空間で起こる。
2016年における政治家を悩ます「移民危機」は、地理的関係の意識なしには意味をなさない。
KS2（7歳～11歳:第3学年～第11学年）の地理カリキュラムは、モラルの問題と地理的な意識をつなぐ特別の機会を創造する。そして、それは自然災害やグローバルな温暖化に関する焦点を含む自然地理の学習や、例えば、食べ物やエネルギーの分配がされるかされないのかという議論を含む人文地理の学習により獲得されるのである。

表6のキャラクター教育での地理からわかるように、「移民危機」や「富が公平に分配、分布しているか」という視点が例として挙げられている。

特に、「公平」、「分配」、「分布」という語が、社会科地理と道徳との接点になっている。

2016年の「移民危機」は、イギリスで起こったできごとで、「移民を受け入れるかどうか」という問題であった。これは、受け入れるという意見と、受け入れることができないという価値葛藤の問題であり、人道的な視点と社会的な視点と両方から考えなければならない難しい問題である。つまり、教科で教えられていたことも、キャラクター教育のアンブレラの中に、このような社会問題の内容も総合的に包摂されているのである。

表7　キャラクター教育での歴史

p.87-88　History に関する記述を筆者訳出。

過去のできごとを通して、文明社会の範囲の人類の歴史における鍵となる人物のいくつかの知恵や徳の開拓の中に子どもたちが入っていくように招待される。
子どもたちは、信頼できる資料を見つけたり、物語を知っている史実にあてはめようとしたりする精密な知性の徳を発達することができるだけでなく、とある歴史の出来事のモラルの風景を開拓したり、いかに異なったキャラクターの存在に歴史の出来事が異なってきたかを探求したりすることができる。
KS2の地方の学習は、例えば、協力、忍耐、細かい気配りなどのような〈パフォーマンス〉の徳を発達させることができる。

また、**表7**の、キャラクター教育での歴史では、知的な徳を発達させるだけでなく、異なったキャラクターの存在、＜パフォーマンスの徳＞などの発達がねらいとされている。 このように、地理、歴史のような社会系の教科でもキャラクター教育ができることが記述されている。2018年3月の段階では歴史人物学習などの教材作成が進んでいる。

Ⅵ　考察

1　アリストテレスとキャラクター教育

*Teaching Character IN THE PRIMARY CLASSROOM*には随所にアリストテレスの哲学が登場する。なぜイギリスのキャラクター教育にアリストテレスなのだろうか。

アリストテレスは人生を幸福に生きるためには、「中庸」が大事だと解いた万学の祖である。また、幸福になるためには、人間しか持っていない徳を探究することも重要で、特に、＜倫理的徳＞を身に付けることが大切だと説いている。＜倫理的徳＞とは、勇気、節制、友愛、正義、誇りなどである。

アリストテレスの思想には、今日にも通用する道徳が含まれ、イギリスのキャラクター教育の柱の一つになっている。本文に出てくる＜アレテー＞とは馬の力であり、馬は早く走ること、そのものが持っている力である。アリストテレスは幸福になるためには人間しか持っていない徳を探究することも大切で、倫理的徳を身に付けるようにとした。このようにイギリスのキャラクター教育は、古代のギリシア時代の哲学者アリストテレスをモデルに考えている。つまり、ヨーロッパのドイツなどの合理主義と比較すると、イギリスは経験主義の国家のため、アリストテレスを引用していると推察される。アリストテレスの言う実践知を重視する道徳はイギリスのシティズンシップを育成する教育にあてはめてとらえることができると考えられる。

2　イギリスのキャラクター教育の動向と特質とシティズンシップ教育

現状の趨勢からみて、イギリスでは、キャラクター教育というアンブレラに、社会系の地理・歴史やシティズンシップ科は包摂されている。これは、中原（2009）の報告によるアメリカのキャラクター教育教材（WDYSF：What Do you Stand. For ？：For kids）の事例と比べるとより教科としての社会科の内容が薄いものとなっている。アメリカでは、道徳と憲法の学習を融合させるなど、社会科の内容が5割程度占めているが、イギリスの場合は、社会科の内容は少ない。

筆者は、現代においてキャラクター教育は大切だと考える。しかしながら、やはり、今後も、市民性を育成するシティズンシップ教育の役割は重要であり、シティズンシップ教育からキャラクター教育をアプローチすることも必要であると考える。

キャラクター教育の書籍やインタビューの分析からは、イギリスのキャラクター教育は、わが国の社会科、道徳、総合、特別活動、社会教育の領域を全て含んでいると言える。

図3：社会科教育学の構造（池野：2015）

池野（2015）が、**図3**のモデルを提示し述べているように、教科教育学は、目標を頂点にして、内容と方法で構成される。内容と方法を用いて、目標を実現するという構造になっており、これが社会科教育学の成立の根拠である。一方、図2のイギリスのキャラクター教育の学習モデルは、全ての子どもたちが繁栄するという目標のもとに、キャラクターの強さ、コアスキル、好奇心、文化的知識で外殻を囲む構造になっており、異なっている。つまり、価値を頂点としたもの、行為を頂点としたもの、またその他のものも考えられる。

3　イギリスキャラクター教育のわが国への示唆

筆者は、わが国のこれからのシティズンシップ教育としての社会科は、道徳科と併存する文脈の中で、内容教科としての社会認識教育が得意とする、価値葛藤のある論争問題（例えばグローバルな地球環境問題）を討論の形で組み込みながら、問題解決力、批判的思考力、意志決定力を育成し

ていくことを目指す必要があると考える。

『社会科固有の授業理論』の著者の岩田（2001）も社会科と道徳の関連について、道徳でも価値論争問題を取りあげることで、社会科授業と同様に市民性を高めることになると述べているが同感である。イギリスのキャラクター教育の授業事例でも、2006年のイギリスの「移民危機」の問題や地球温暖化の問題を、人道的モラルと社会科学との両方の視点から価値葛藤問題を考えることを目指していた。 このような価値葛藤問題は岩田も述べるように、子どもたちの市民性、シティズンシップを育成する上で重要な取り組みだろう。従って、わが国の道徳と社会科でも、価値葛藤問題の授業づくりを両方で試みたり、時には一緒に組み合わせたりしてカリキュラムマネジメントすることは興味深い試みであると考える。一方で、考えなくてはいけないのは、小学校現場では、1人の教員が社会科も道徳科も教える。その意味で今後、教科として社会科と道徳科が併存している場合、シティズンシップの育成を目指す社会科学科としての社会科と、心情を重視する教科としての道徳の両方の教科の特質をよく理解し、それぞれの教科の特質を生かし、どのような資質能力を育成するかを明確にした授業づくりやカリキュラムマネジメントが必要である。また同時に教科の目標と特質を教える大学での教師教育が今後重要な鍵となるだろう。

Ⅶ　おわりに

本研究は、イギリスでの、衰退するシティズンシップ教育に代わりこの数年盛んになってきているジュビリーセンターが推進するキャラクター教育を分析し、その特質を明らかにした。

現在、欧米の潮流はキャラクター教育、徳の教育など、道徳教育にあたる教育が主流となってきた。シティズンシップ教育からキャラクター教育に変わる動きがあり、大きな流れとなっている。

科学的社会認識と道徳的態度は分離し、事実と価値の二元論に立つ考えと、2つのものは結びつき、子どもの中で統合されている事実と価値の一元論の考えになる。キャラクター教育はいわば一元論である。一元論が進むと、社会科は価値を教化する教科になってしまう可能性がある。そこで一元論に立った教化防止論を身に付けた、教科としての社会科シティズンシップ教育論が必要である。

キャラクター教育を大切にしつつも、同時に、社会科学科としての社会科の重要性と本質を見極めていく必要がある。

＜註＞

1)　ESDとはEducation for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育のことであり、オーストラリアではEfS（Education for Sustainability）ということが多い。

2)　2016年にEU離脱の国民投票が行われた後、首相がTheresa Mayになり教育大臣もNicky MorganからJustine Greeningに代わった。これにより、キャラクター教育にも変化があるかもしれない。今後の動向に注目したい。

＜引用文献＞

・池野範男（2015）「シティズンシップ教育国際会議論文・発表資料集：「道徳性」の視点から考えるシティズンシップ教育」『科研：多様性と民主主義を視点としたシティズンシップ教育の国際比較研究』広島大学院学習システム研究促進センター

・伊藤直之（2012）「イギリスにおける地理カリキュラム論争―スタンディッシュとランバートの教育論に着目して」『社會科研究』No.76, pp.11－20.

・今谷順重（2004）「イギリスで導入された「新しい市民性教育」の理論と方法―人生設計型カリキュラムの構想―」『社会科研究』No.60, pp.1－10

・岩田一彦（2001）『社会科固有の授業理論：30の提言』明治図書 pp.170－171.

・片山勝茂（2009）「イギリスにおける道徳教育の改革動向とその評価」第68回『日本教育学会大会発表資料』

・片山勝茂（2017）「イギリスの道徳教育改革からみる日本の道徳「教科化」」明治図書ホームページhttp://www.meijitosho.co.jp/eduzine/

opinion/
・川口広美（2012）「学校シティズンシップ教育カリキュラムにおける道徳性の位置づけとその意義：イングランドの場合」『広島大学大学院教育学研究科紀要第二部』No.59 , pp.67－76.
・小玉重夫（2014）「道徳とシティズンシップ教育の連携可能性」『Voters』No.19, p.2
・酒井喜八郎（2014）「シンガポールのシティズンシップを育成する多文化教育」『地理教育研究』No.14, pp.52－59.
・酒井喜八郎（2015）「オーストラリアのESD教育としての環境教育」『地理教育研究』No.16, pp.25－30.
・酒井喜八郎（2016）「シンガポールにおけるCCE（人格・市民性教育）の内容と特質－シラバスと教科書分析を中心に－」『社会系教科教育学研究』No.27 , pp.91－100.
・酒井喜八郎（2017）「オーストラリアの新社会科HASSの動向と特質：ナショナル・カリキュラムとクイーンズランド州の事例の分析から」『教育方法学研究』No.43, pp.1－12. 日本教育方法学会
・田中伸（2012）「英国市民性教育研究の方法論的特質－3つのアプローチにみられる研究目的・内容・方法の特質と課題－」『社会科教育論叢』No.48, pp.87－96.
・戸田善治（2001）「イギリスにおける「市民科」の誕生」『社会科教育研究別冊研究年報』pp.61－66.
・中原朋生（2009）「初等教育における市民性育成プログラムの内容編成：米国キャラクター・エデュケーション教材を手がかりとして」『川崎医療短期大学紀要』 No.29, pp.49－57.
・蓮見二郎（2012）「社会形成としてのシティズンシップ教育」『法政研究』No.79,（3）, pp. 684－706.
・藤原孝章（2006）「アクティブシティズンシップを育てるグローバル教育」『同志社女子大学社会システム学会現代社会フォーラム』No.2, pp.21－38.
・水山光春（2010）「日本におけるシティズンシップ教育実践の動向と課題」『京都教育大学教育実践研究紀要』No.10, pp.23－33.
・吉村功太郎（2012）「シティズンシップ教育としての社会科」『社会科教育学ハンドブック』pp.102－108.
・David Carr & Tom Harrison（2015）***EDUCATING CHARACTER THROUGH STORIES*** Imprint-academic.com
・Jubilee centre（2013）*A Framework for* Character Education in Schools
・Tom Harrison *et al.*（2016）***Teaching Character Education in primary school Learning Matters*** SAGE Publiations Ltd.

謝辞

本研究をする中で、Tom Harrison氏（バーミンガム大学ジュビリーセンター）には資料収集やインタビューにおいてお世話になった。また片山勝茂氏（東京大学）にはイギリスの道徳教育や教育哲学に関してアドバイス頂いた。ここに感謝したい。本研究は、学園奨励研究の成果の1部である。

Abstract

The purpose of this study is to clarify the trend and feature of Character education in England. In addition, this study aims to consider relation of social studies and moral education in Japan. The author visited and interviewed Jubilee centre in Birmingham in 2015 and 2016. Furthermore, the author analyzed two books, the titles of which are the *Education Character Through Stories and Teaching Character in the primary classroom*. As a result, in England, Character education involves geography education, etc. like umbrella. The goal is to enhance the courageous, care, resilience, etc. as leader in the future based on good sense or practical wisdom which lead to intellectual virtues by Aristoteles idea. I argue that character education is important now, on the other hand, social studies education is important as well. The author considers the relation of social studies and moral education as citizenship education. Especially, when the teacher teach as value conflict issue: eg. global environmental problem etc. in social studies, teacher should design lesson to foster good citizenship through the study of person who confronted with dilemma and decision making. Therefore, the author concludes that teacher should understand each feature of social studies and moral education as subject in Japan, which means curriculum management and teacher education are necessary. Not only that, but we have to consider the importance and significance of social studies as subject of social science which grow social cognition and citizenship.